令和6年度 江戸川区立鹿骨小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	自立と貢献 ○よく考える子 ○思いやりのある子 ○じょうぶな子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体の調和のとれた児童」の育成を果たす学校 自立し貢献する児童 組織人として共通実践し、各学年での指導責任を果たす教職員
前年度までの本校の現状	成果	学校公開の保護者の感想や年度末評価において、おおむね満足いただいている。全国学力学習状況調査や東京ベーシック・ドリル診断シート、学校独自の標準学力調査においても、着実に学力向上が図れている。	課題	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に学力は向上してきているが、高学年になるほど学力定着の二極化が見られる。 特別支援教育の視点に立った学校運営、学級経営を推進していく必要がある。 周年、統合に向け、地域との連携をさらに深めていく必要がある。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価（A~D）		「年度末」学校関係者評価（A~D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得	・各ブロックにおける一部教科担任制の実施	・全学年で年間を通して教科担任による授業や合同授業を実施。	A	B	A	・全学年で教科担任制による授業や合同授業を実施できた。	A	・教科担任による授業を受けることで学力の向上がみられる。複数の教員が児童をみることができる。	A	・年間を通して低学年では体育・総合の合同授業、中、高学年では社会、理科の教科担任制を実施できた。その他、全学年で音楽、図工、習熟度別算数授業を実施することで、系統性ある指導を意識し、児童の実態に応じた指導内容の工夫を行うことができた。	B	・教科担任制による取り組みで、資料作り、プリント、事前研究等の作業時間も確保でき、その分教材研究も深まったが、学力の向上につなげることができなかった。 ・専門性の高い授業は、学力向上だけでなく、興味の引き出しなどにも有効だと言える。	・単学級ブロックで実施しているため、2学年分の教材研究をしなければならず、準備に時間がかかった。観察実験アシスタント等を活用を進め、負担を軽減していく。
		・業者による放課後補習教室「カムバック教室」、全教員による補習「サンライズ教室」の実施	・カムバック教室年150回、サンライズ教室年35回以上を実施。	B	A	B	・9月初旬までに放課後補習教室を42回、サンライズ教室を12回実施した。	B	・カムバック・サンライズ教室を継続的に実施することで成果が出ている。	A	・1月末までに放課後補習教室を104回、サンライズ教室を34回実施し、東京ベーシックドリルの正答率が向上した。また江戸川っ子studyweekでの取組率も100%であった。	A	・カムバック・サンライズ教室を実施することで学力の向上につながっている。100%の取組率はA評価に値する。	・全教員による補習教室は、周年行事・開校式典等の準備期間では設定が難しいことがあった。行事等を踏まえ、設定していく。
	○読書科の更なる充実	・朝読書・昼読書の時間の設定 ・学校図書館の環境整備や興味・関心を高める取組の推進	・年間延べ23時間以上・館内案内板、年3回の読書月間におけるおすすめ図書紹介	A	A	A	・読書月間に読書ビンゴを行った。図書委員会が用意していたしおりがなくなってしまうほど、読書量が増えた。	A	・読書ビンゴを行うことで興味や関心が高まる。読書月間だけでなく終了後も継続できる取り組みがあるとよい。	A	・学校司書と連携し、企画展示を行ったり、おはなし給食を行ったりし、年間を通して読書への興味を高めることができた。	A	・本に興味を持たせる取り組みは、心を豊かにし、調べたいものを知りたいものを自ら調べようとするので良い取り組み。 ・読書ビンゴを行うことで本に親しむ時間が増えた。	・来年度統合となるため、松本小学校の学校図書館担当と連携しながら、計画的な本の購入、廃棄等を進めていく。
体力の向上	○運動意欲や基礎体力の向上	・毎朝マラソン、マラソン週間の設定	・マラソン週間を全学年年間3回実施	D	C	D	・毎朝マラソンは実施できていないが、マラソン週間は今後取り組んで行く予定である。	D	・マラソンに限らず日常的な運動習慣につながる取り組みが必要である。	C	・日常的な取組としてなわとびを行った。学校全体で取組むことで意欲が高まってきた。1月に新しいコースで保護者参観のもと、全学年マラソン大会を実施した。	C	・マラソンは体力だけでなく忍耐力も鍛えられるので今後も続けてほしい。 ・学年が上がるごとに速さ・体力がついているのはマラソン大会を見て実感できた。	・運動意欲や基礎体力を向上を図るため、学校全体で行う体育的行事や始業前、業間休みでの取り組みを充実させていく。
		・なわとびチャレンジウィーク・なわとび大会の設定	・学期に1回2週間全学年で実施 ・低・中・高において3回外部講師を招いた授業を実施	A	A	A	・学期に1回「なわとびチャレンジウィーク」を実施した。毎週水曜日は、全校でなわとびに取り組んだ。外部講師も招いて全学年授業を実施できた。	A	・外部講師を招いての授業は、児童の関心を高めた。	A	・毎週水曜日に「なわとびタイム」毎月最終日に「なわとびチャレンジデー」年間3回「なわとびチャレンジウィーク」を実施し、意欲が向上した。	A	・なわとびの継続的な習慣ができたのはよかった。 ・運動意欲の向上は図れたようだが、基礎体力の向上はどうだったのか。	・次年度も継続して通年でなわとび等に取り組むことで、持久力・瞬発力等の向上につなげていく。
		・夏季水泳教室、校内水泳大会の実施	・夏季水泳教室6回実施、25mを泳げる高学年児童70%以上にする	D	D	D	・熱中症対策で校内水泳大会は行わず、検定日を2回設けた。練習時間確保が難しかったため、26%の達成となった。	D	・熱中症対策で計画に沿った実施が難しいが1学期に集約するのは良い対応 ・高学年は90%以上は25mを泳げるようにしたい。	D	・左記と同様	D	・児童によっては学校の授業が唯一の水泳の機会かと思うので、水泳実施の確保をぜひお願いしたい。	・目標設定も含めて再検討し、児童の実態に即した指導と評価を行っていく。
実現に向けた教育の推進 共生社会の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導の実施・充実	・来年度統合する松本小学校との交流活動	各学年年1回以上の実施	D	B	D	・6年生は日光移動教室と同じ宿舎に泊まり、交流を図った。今後、全学年で交流予定。	D	・松本小との交流は継続したい。共同で班を作って何かに取り組むような施策を入れたい。	B	・松本小との交流では、お互いの立場を理解し合いながら、2年生が鹿骨小学校でゲーム大会を行った。今後1年生がたこあげ、5年生がウィンタースクールで交流予定である。	B	・松本小との統合に向け楽しみや不安がある中、ウィンタースクール等で交流する事により、みんな楽しく明るい学校にしようとする活動はできたが、ユニバーサル視点については十分ではなかった。	・鹿骨小と松本小が統合し新たな校舎となるため、愛校心、新しい友人とのかかわりを大切に、開校に関わる取組を充実させていく。
		○エンカレッジルームの活用促進	エンカレッジルーム、教育相談室の環境整備	環境整備日年3回以上、活動や相談がしやすい、落ち着いた明るい空間づくりの実施	A	A	A	・1学期中に必要のないものを取り出し、学習や軽めの運動ができるスペースを確保し、活動しやすい空間を作った。	A	・エンカレッジルームの存在や活用意義、多様な児童の存在についてもっと学校から発信していきたい。	A	・教材教員やレイアウト、書類保管方法等を検討・調整し、統合後も円滑に指導開始できるよう整えたことで延べ6人が活用できた。	A	・エンカレッジルームの存在の認知度向上にもう少し検討の余地があったのではないかと。

不登校の充いじめ対応	○個に応じた指導の実施	不登校児童や配慮が必要な児童への支援の充実	月1回以上の校内委員会、3・5年生のスクールカウンセラーによる全員面談を実施	A	A	A	・毎月1回以上校内委員会を実施した。全員面談も終え、個々に必要な支援を確認し、不登校児等へ働きかけを行っている。	A	・カウンセラーの取り組みは大切だが、成果を得ることは難しい。支援についても、広く周知したい。	A	・不登校や不登校渋りの児童に対して校内別室について発信し、2名の児童の登校につなげることができた。必要に応じてSSWと連携し、必要な働きかけを行っている。	A	・2名の児童が登校につなげることができたのは、カウンセラーによる面談や職員の働きかけの結果である。	・不登校児童や配慮が必要な児童への支援は個々の状況をよく理解した上で働きかけを行い、保護者と連携していくことを大切に決めていく。
	○教育相談の強化	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携強化	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、巡回心理士、巡回教員、特別支援教育専門員等との情報共有やミニ研修の場を月1回以上実施	A	A	A	・毎週1回、連絡会議を開き、情報共有を行い、よりよい支援になるように連携を強化した。	A	・カウンセラーを始め、その他の専門員との連携がとれている。	A	・校内委員会を月に1回以上行うことでSCやSSWと校内職員が必要な情報共有ができた。それをもとに児童へのカウンセリングや保護者面談を実施し、家庭との共通理解のもと児童への支援を進めることができた。	A	・児童をはじめ、保護者との面談を実施することができたのはよかった。 ・職員や担任に言えないことも、スクールカウンセラーには話せることもあるのでよい成果を得ることができる。	・今後も定期的に情報共有を行う時間を設定し、連携を強化していく。よりよい支援になるように引き続き進めていく。
	・huyaer-QUの活用	③児童の実態把握に基づいた指導の推進	「hyper-QU」年1回、結果に基づくケース会議の実施	A	A	A	・結果を基に、各担任から実態について説明し、情報共有を図った。	A	・学年、クラス単位、学校全体としての特色があれば共有したい。	A	・「hyper-QU」の分析を行い、校内で共有し、生活指導夕会で各学年の児童について報告し合うことで、全教職員で児童理解が児童理解が深められ、児童が安心して学校生活を送ることができた。	A	・今後も各学年の児童について報告し合う事で全職員の児童への理解も深まり、安心して学校生活を送ることができている。 ・小規模ならではのきめ細やかな対応ができている。	・一人一人の分析をしっかりと進め、児童理解が深まるように全職員に会議や紙面で報告しあう環境を作っていく。
学校(園)の地域社会に開かれたの実現	○学校(園)ホームページの充実等	学校ホームページの積極的な配信	学校ホームページの学校日記を毎日更新	B	B	B	・2日に1回程度、各学年の様子を学校日誌で配信した。	B	・個人情報保護の観点もあるが、画像が粗い。	B	・行事や外部講師を招いた授業、交流会等については必ずホームページに載せ、学校の特色が分かるようにした。	B	・頻度の高い更新がよい。	・新校に向け、現在ホームページを作成している。4月1日の開校に向け準備を進めていく。
	学校(園)公開の実施・充実	教育活動の積極的な公開	年5日以上の学校公開日設定、年5回以上の参観アンケート実施	B	B	B	・9月までに3回学校公開を実施し、参観アンケートも行った。ご意見は全員で共有した。	B	・アンケート結果を共有し、改善につなげたい。	B	・1月までに学校公開を4回実施し、参観アンケートも実施した。アンケート後には全教員でアンケート結果を確認し、次の公開へ向けて改善していった。	B	・学校公開の実施はとても良い。	・学校公開では、掲示も充実させ、教室内や廊下の掲示等も学習の様子が分かる内容にしていく。
	学校関係者評価の充実	保護者評価の実施 学校関係者評価の実施	保護者評価は年1回、関係者評価は年2回実施	B	B	B	・関係者評価を2回行った。学校評議委員会で出た意見もまとめ、教職員に周知した。	B	・ホームページの更新が充実している。	A	・12月に学校教育に関するアンケートを実施した。回収率が17%であったため、再度呼びかけ、35%にまで回収率を上げた。1月には集計結果をまとめ、保護者に配布できた。	B	・ホームページの更新が充実している。	・保護者や学校関係者の声を大切にし、全教職員で確認するとともに、学校教育の充実につなげていく。
教育の展開 特色ある	「花の寄せ植え活動を始めた」として、地域への愛着や誇りを高める取組の充実	地域の花園やPTAと連携した花の寄せ植え活動やPTA花壇の花植え	①花の寄せ植え活動年1回、PTA花壇の花植え年3回実施	B	A	B	・PTAと連携し、全学年で花寄せ活動を1回行った。PTA花壇も随時手入れをした。	A	・花の寄せ植えは、地域の伝統的な取り組みで児童の心を豊かにしている。	A	・60周年記念式典前に、児童からアイディアを出させ、PTAと連携し、プランターの花植えを児童のアイディアで採用できた。PTA花壇についても60にちなんだ花植えをすることができ、式典を盛り上げることにつなげた。現在もプランターは正面玄関と校庭に置いてある。	A	・花の寄せ植えは伝統をつなぐ気持ちを大切に、心の教育につながる特色ある取り組みなので継続を願う。	・花の寄せ植え活動・PTA花壇の整備は本校の特色でもあるため、新校でも鹿骨・松本地域に関わる学習を推進していく。
	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	会議時間の短縮、校務支援システムの活用	校務支援システムの活用率100%にし、月の時間外勤務時間平均60時間以内に設定	B	B	B	・校務支援システムで情報共有を行い、会議時間を短縮した。時間外勤務時間60時間以内の教員が8割程度だった。	B	・周年や閉校行事がある中、勤務時間の短縮化をはかることは難しい。校内のITシステムの改善が必要。	B	・校務支援システムを活用し、情報共有が図れた。1月までの時間外勤務時間60時間以内の教員は9割弱であった。	B	・ITシステムは引き続き見直しが必要だと思う。 ・統合、閉校の行事がある中、職員の勤務時間の管理は難しかったと思う。	・今後も校務支援システムをや教員用タブレット端末等を活用し、効率的に業務を進められるようにしていく。
	「教員研修の実施」	教員の組織的な育成	全教員年3回の指導案作成、授業観察の実施	A	B	A	・全教員が指導案を作成し、授業観察を行った。授業後、全教員と面談し、授業改善プランを伝えた。	A	・年間を通じて時間外での研修がある ・小さな学校なので情報共有がしやすい。	A	・1月までに全教員2回、授業を観察をし、授業改善プラン等を伝えた。江戸川区の研究日にも区内の先生が参観する特別活動の授業校として2年生が授業を行い、授業における指導についての情報共有ができた。	B	・研修への参加は評価できるが、これを児童の教育にどう生かすかが重要であり、学力の向上をさらに進めていく。 ・情報共有をこれからもしてほしい。	・授業観察の他に校内若手教員育成研修や2年次研修も行き、学習指導に関する研修を行った。明日の授業につながるよう今後も進めていく。